

命の大切さ

(原文)

佐藤 心葉 (12 歳)

長野県

山ノ内町立山ノ内中学校

私は命の大切さについて考えました。命とは私たちにとって、なくてはならないものです。なぜなら命があるからこそ、私たちは喜び、悲しみ、事を楽しみ、仲間と笑いあうことができるからです。しかしそんな尊い命を失ってしまった出来事がありました。それは、東日本大震災などのことです。

大地震で家が失われたり、津波で流されたりしてしまった人もいます。私はまだとても幼い頃で覚えていませんが、家族のみんなから当時のことを聞くと、テレビで見た悲惨な光景や、苦しむ人々がたくさんいたようです。一方で、震災の時に支援をしてくださった方もいたようです。食料を送ったり、お金を寄付したり、様々な事で支援してくださいました。支援してくださった人たちへの感謝も込めてこの事は一生忘れてはいけないなと思いました。

それから数年前、母が病気になってしまいました。私は母が病気になってしまった事を知ったあの時は悲しくて、辛くて、毎日毎日泣いていました。だけど、母は強くて病気なんかには負けずに一生懸命闘っていました。そんな母はすごいなと思っていました。母は私に「寂しい思いをさせてごめんね」や「退院したらたくさん遊ぼうね」など言われた時は、母の強さや思いやりに感動しました。

お見舞いへ行く日は唯一母に直接会える日だったので嬉しくてたまりませんでした。母と色々話せるのが楽しくて、夕方になり、家へ帰る時は嫌でした。ずっとずっと一緒にいたいと思っていました。

それと時々外泊できる日がありました。母が家に帰ってきて一緒に料理を作ったり、家族みんなでお出かけしたりしました。たったの一日だったけど久しぶりに家族みんなでお過ごして私はとても幸せな気持ちになったし、母も私と同じ気持ちになったと思います。

そして退院の日。私は「早く帰ってこないかな」と家でずっと待っていました。家に帰ってきた時はとても嬉しい気持ちでいっぱいでした。最後まで諦めずに病気と闘った母はとてもカッコいいなと思いました。無事に退院出来てよかったなと思います。もし、死んでしまったら私は泣いて泣いて心にぽっかり穴があいたような気持ちになると思います。これは母に限らず、友だち、兄弟、お世話になった人、家族みんなも一緒です。

これらのことから、世の中には、元気な人、病気を抱えている人、障害を持つ人、物質や食べ物の不足に苦しむ国の人々、様々な状態の中で生きている人がいます。でもその一人ひとりが、毎日を生きています。生きていれば辛いこともあります。生きている今日を大切にしなければいけないと思いま

す。毎日元気に過ごしているのは奇跡だと思います。これからも命の大切さについて考えていこうと思いました。それこそが、平和につながることだと思うからです。